

一般国道39号(北海道横断自動車道網走線) 端野高野道路に係る新規事業採択時評価

- ・現道の課題箇所を回避し、冬季災害に強い道路ネットワークを構築
- ・圏域中心都市と物流・観光拠点間のミッシングリンクを解消し、観光振興や地域産業の活性化に貢献
- ・高次医療施設への速達性向上により、地域の安心できる暮らしを確保

1. 事業概要

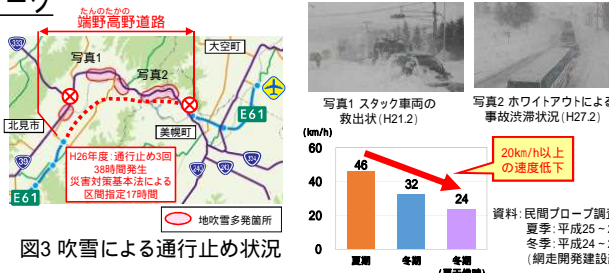
- ・起終点: 北海道北見市端野町字川向 ~ 北海道網走郡美幌町字高野
- ・延長等: 14.3km (第1種3級、2車線、設計速度80km/h)
- ・全体事業費: 約480億円
- ・計画交通量: 約13,400台/日

乗用車類	小型貨物	普通貨物
約9,400台/日	約1,400台/日	約2,600台/日

2. 課題

冬季災害に対する道路ネットワーク

- ・オホーツク圏は吹雪等の発生頻度が道内でも特に高い地域であり、現道の国道39号では冬季災害による通行止めが多発。(図3,写真1,2)
- ・冬季は地吹雪等により走行環境が悪化し、旅行速度が低下。(図4)



物流効率化や周遊観光促進に不可欠な道路ネットワーク

- ・当圏域は全国の「食」を支える生産空間であり、出荷ピークが冬季のため、冬季走行環境の悪化や、通過交通と生活交通の混在による大型車事故率の高さ等、安全安心な輸送ルートの確保に課題。(図5)
- ・オホーツク圏は、世界遺産知床や流水などの観光資源が多いが、高規格幹線道路の開通地域で観光客が増加する中、オホーツク圏は伸び悩んでおり、女満別空港を利用する観光客の主要な目的地である北見市やオホーツク管内の観光地への周遊性向上が課題。(図6)

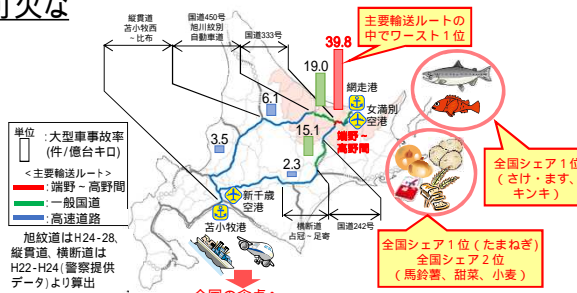


図5 主要輸送ルート別大型車事故率比較

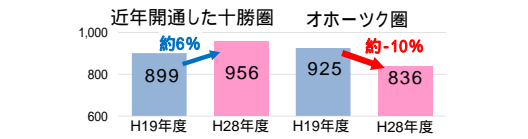


図6 圏域別観光入込客総数伸率比較(H28年度/H19年度)

高次医療施設へのアクセス

- ・オホーツク圏唯一の3次救急医療施設である北見赤十字病院のカバー面積は全国平均の約8倍と広く、管内で人口の多い網走市の人口3割が北見市へ60分以内に到達できない状況。(図7,8)
- ・また、冬季は旅行速度が著しく低下し、さらに所要時間を要するため、網走市の人口7割が到達できなく、救急搬送における速達性の確保が急務。(図8)



図7 3次救急医療施設カバー面積の比較

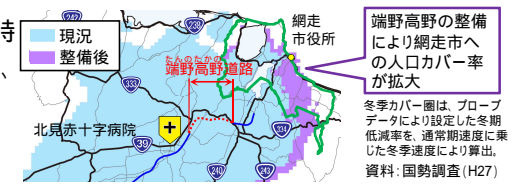


図8 北見市高次医療施設60分カバー圏(冬季)

3. 整備効果

効果1 冬季災害に強い道路ネットワークの構築

- ・地吹雪多発箇所を回避し、冬季においても安全で信頼性の高い道路ネットワークを確保。
- | | | |
|------------|--------|---------|
| 地吹雪多発箇所の回避 | 現況 6箇所 | 整備後 0箇所 |
|------------|--------|---------|

効果2 ミッシングリンクの解消による物流効率化や観光周遊性の向上

- ・事故危険区間を回避し、安全性や輸送効率の高い物流ネットワークを形成し、地域産業の活性化に貢献。
- ・ミッシングリンクの解消により、女満別空港を利用する観光客の主要な目的地である北見市へのアクセスが向上するとともに、北見市を拠点としたオホーツク管内の観光周遊性が向上。(図9)



図9 オホーツク圏の観光資源と周遊性

効果3 高次医療施設へのアクセス向上

- ・速達性向上により、北見市第3次救急医療施設の60分圏カバー人口が拡大し、救急医療を支援。
- | 北見市高次医療施設60分圏網走市カバー人口 | | 北見市高次医療施設60分圏網走市カバー人口 | |
|-----------------------|-------------|-----------------------|-------------|
| 現況 | 整備後 | 現況 | 整備後 |
| 冬季: 13.4千人(34%) | 38.2千人(98%) | 夏季: 26.3千人(67%) | 38.7千人(99%) |

費用便益分析結果(貨幣換算可能な効果のみを金銭化し、費用と比較したもの)

B/C	EIRR ¹	総費用	総便益
1.2	4.9%	909億円 ²	1,045億円 ²
(1.4)	(5.8%)	(353億円 ²)	(489億円 ²)

注) 上段の値は本別JCT-網走を対象とした場合、下段()書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果
1: EIRR、経済的内部収益率 2: 基準年(H30年)における現在価値を記載(現在価値算出のための社会的割引率: 4%)

道路ネットワークの防災機能評価結果

改善ペア数	脆弱度(防災機能 ²)		累積脆弱度の 変化量	改善度		評価
	整備前	整備後		通常時	災害時	
23	0.11[B]	0.02[B]	2.71	0.09	0.16	A
(15)	(0.08[B])	(0.03[B])	(0.42)	(0.09)	(0.13)	

注) 上段の値は本別JCT-網走を対象とした場合、下段()書きの値は事業化区間を対象にした場合の防災機能評価結果

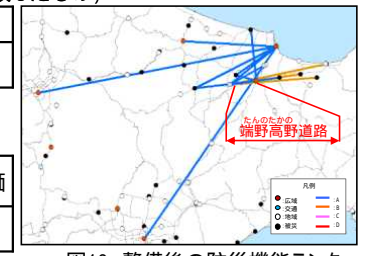


図10 整備後の防災機能ランク

